



いわての林業人 31

今月の普及班便りでは、平成15年

度林業経営推奨行事で農林水産大臣賞を受賞した、宮古市崎山の篤林家

齋藤眞琴さんのところでシイタケ生産を主とした林業経営への新規参入を目指して勉強中の篠崎 正さん(44歳)をご紹介します。

篠崎さんは、長年トラックの運転手をされていましたが、遠隔地への転勤を打診されたことをきっかけに地元で働きたいと考え、親戚の方が長く働いていた齋藤さんのところで林業を勉強することになりました。



篠崎 正さん

林業の勉強は、宮古市の単独事業である林業新規就業希望者研修支援事業等を活用しており、平成24年3月末で参入して2年になりますが、今まで、シイタケ原木の伐採、葉枯

らし、玉切りや間伐の主に素材の搬出作業等を行ってきました。この春の植菌から、シイタケ栽培を本格的に開始し、齋藤さんのほだ場や機材等を借り受け、徐々に規模を拡大していく予定です。



齋藤さんのほだ場

将来は、シイタケ生産を中心として経営を行っていくつもりですが、軌道に乗るまで数年はかかるので、素材生産の作業を並行して行っていくこととしています。

シイタケについては、林業技術センターでの原木シイタケ栽培技術研修や種菌業者が主催する研修会に参加して技術習得に努めていらいっしょに、素材生産現場が必要となる資格は、ほぼ取得済みとのこと。

林業参入の感想を伺うと、「まったくの白紙で始めたので大変だった

し、各現場がすべて違うので難しさはありますが、齋藤さんに好きなようにやらせてもらっているし、自然を相手にマイペースでやれる仕事なので楽しくやっています。今は、毎日勉強と思っています。」と謙虚なお答えがかえってきました。



間伐の現場

齋藤眞琴さんに篠崎さんについて伺うと、「まじめ過ぎるくらいにまじめ。とにかく怪我の無いようにしてもらいたい。それにつけても丸太がもう少し高ければいいのだが。」とのことでした。

篠崎さんの生産したシイタケが品評会を賑わす日を心待ちにしております。

林業技術センター普及班

019 (698) 1337